

北海道静内農業高等学校の行動計画(グローバル・アグリハイスクール宣言)

全国の農業高校の行動計画		学校において令和2年度に重点化した取組の実現状況・課題			
「5つの基本方針」	「10の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	実現状況	課題	評価
I グローバル教育 で人材を育てる 学校	①「生徒一人一人を一層成長させる」教育を行います。	アグリマイスター顕彰制度を推奨し、農業教育の質を向上させます。	アグリマイスター顕彰については各種検定や各種大会等の成績から9名の生徒が顕彰された。	可能な範囲での校内活動やその記録は充実していたが、外部から認められる場面が例年より少なかった。	4
	②「世界と日本をつなぐグローバル」教育を行います。	(1)ASIAGAP認証を受けた生産管理工程を継続させ、グローバルな農業に関する視点を向上させる。 (2)各諸国との連携事業を充実させ国際教育を推進する。	年度初めから生徒の実習が計画通りに進めることが出来なかった。	SNSやリモートワークが可能となる整備が早急に必要である。	3
II 地域社会・産業に寄与する学校	③「地域農業の生産を支える」教育を行います。	地域で栽培・飼育されている者を取り入れた学校農場経営を実践し、地域の担い手や地域農業を支える人材を育てます。	競走馬の生産については、地域との連携や協力もあり成果は出せている。	競走馬の生産での地域連携は後も継続させ、それ以外の部門で連携をもっと強化させる。	4
	④「地域の農業関連産業に寄与する」教育を行います。	栽培・飼育・加工・販売・活用の学習を通して6次産業化に対応した人材を育てます。	6次産業を行っている農家への研修を行っている。	基幹産業である馬産業以外の農家の課題を6次産業化で解決できるか探る。	4
III 地球環境を守り創造する学校	⑤「地球環境を守り創造する」教育を行います。	本校に隣接する二十間道路桜並木を通して環境保全について考え、地球環境を守る人材を育てます。	行事等の中止で地域資源である二十間道路の桜並木の学習にふれることができなかった。	二十間道路の保全、地域資源を生かす活動を具体的に計画し実践する。	2
	⑥「食農」教育を推進します。	『食農』の重要性・持続性について学ぶとともに、地域教育機関との連携を図り、食農交流の機会を設け、『食農』への興味・関心を高める。	普及センターと連携してGAPの継続審査、新規認証を行っている。	GAP, HACCPの取組を実践し、原材料の重要性と安心安全なもののつくりを見える化する。	3
IV 地域交流の拠点となる学校	⑦「地域資源を活用する」教育を行います。	基幹産業、観光資源を活用した学習を展開し、地域の活性化に寄与する人材を育成する。	馬産業については概ね計画通り実施できている。観光資源につてふれた学習展開が行えなかった。	地域の課題を、地域資源、観光資源を活用して解決できる方法を考える。	3
	⑧「地域交流の拠点となる」教育を行います。	学校を開放する機会や本校の教育成果を発信できる機会を積極的に設ける。	HPやSNS、各紙報道、産業教育フェア等による情報発信は行えている。	コロナ過の影響で今年度、学校を開放するような行事や機会は行えていない。今後も未定である。	2
V 地域防災を推進する学校	⑨機関・団体と連携した」教育を行います。	地域の協力を得ながら地域農業や地域社会の持続的・安定的に寄与できる産業人の育成に努めます。	農業インターンシップ、デュアル派遣実習は開催時期を変更して実施した。	進路活動に直結する生徒もいるが、地域産業が限定されるため、目的・事前学習を徹底する。	3
	⑩「地域防災を推進する」教育を行います	防災意識を常に持ち、自助、共助、公助連携し、『命を守る』意識を高める指導の徹底を図ります。	防災避難訓練を定期的な訓練、より実践的な訓練の2回行った。	施設の老朽化等による想定外な場面が見られた。定期的な施設確認が必要である。	4